

2019 年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

2019 年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、2020 年 9 月 10 日(木)に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から Web 会議において開催された。

この検討会には、試験場関係者 32 名、委託関係者 20 名ほ

か、計 67 名の参集を得て、除草剤 19 薬剤(71 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

2019 年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験 判定

A. 除草剤 (1)小麦

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.AK-01 液 グリホサートイソプロピル アミン塩:41% [TAC普及会]	実・継 (従来 通り)	一年生雑 草	茎葉処理 (全面)	耕起7日以前 雑草生育期	250~ 500mL 散布水量50 ~100L	全土壌	東北以南	・周辺作物に飛散し ないように注意す る。	・播種後出芽前 における効果、薬害の 確認
		多年生イネ 科雑草			500~ 750mL 散布水量50 ~100L		北海道		
2.ANK-553(改) 乳 ペンディメタリン:30.0% [BASFジャパン]	継								・小麦生育期、雑草 発生前での効果、 薬害の確認
3.BAH-1517 乳 シンメチリン:75.0% [BASFジャパン]	-								
4.HSW-062 フロアブル インダノファン:10.0% ジフルフェニカン:4.0% [ホクサン]	実・継	一年生雑草	土壌処理 (全面)	播種後出芽 前、雑草発 生前	150~250mL 散布水量 70~100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道	・葉に白斑を生じる 場合がある ・イヌカミツレが多 発する圃場では高薬 量で使用する	・小麦3葉期処理で の効果、薬害の確 認(北海道)
				出芽直前~ 小麦3葉期、 雑草発生始	100~200mL 散布水量 70~100L				
				茎葉兼土 壌処理 (全面)	小麦4~6葉 期(越冬前)ス ズメノカタビラ 4葉期まで				
5.MAH-1802 フロアブル ペンディメタリン:35% [アダマ・ジャパン]	継								・播種後出芽前処 理での効果、薬害 の確認
6.ZH-1402 フロアブル オキサジクロメホン:30.0% [全国農業協同組合連合会]	継								・播種後出芽前 での効果、薬害の確 認 ・出芽前期での効 果、薬害の確認 ・小麦1~3葉期で の効果、薬害の確 認

A. 除草剤 (1)小麦

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容		
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意	
7.トリフルラリン 乳 トリフルラリン 44.5% [日産化学]	実・継 (従来 通り)	一年生雑草	土壌処理 (全面)	播種後出芽 前, 雑草発 生前	200mL～ 300mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・ツユクサ科, カヤツ リグサ科, キク科, ア ブラナ科を除く。 ・小麦生育期処理 は, 播種後の土壌 処理剤との体系で 使用する。	・カズノグサに対 する効果の変動要 因の確認 ・小麦1～3葉期, 雑 草発生始期におけ る効果, 薬害の確認	
		一年生イネ 科雑草		播種後～小 麦3葉期, イ ネ科雑草1葉 期まで						北海道
		一年生イネ 科雑草, カ ズノグサ		小麦生育 期, 雑草発 生前						全域
8.トリフルラリン 粒 トリフルラリン 2.5% [日産化学]	実・継 (従来 通り)	一年生雑草	土壌処理 (全面)	播種後出芽 前 雑草発生 前	4～5kg	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・ツユクサ科, カヤツ リグサ科, キク科, ア ブラナ科を除く。 ・小麦生育期処理 は, 播種後の土壌 処理剤との体系で 使用する。	・北海道での小麦1 ～3葉期(イネ科雑 草1葉期まで)の効 果, 薬害の確認 ・体系処理でのカズ ノグサに対する効 果の確認 ・小麦生育期, 雑草 発生前での効果薬 害の確認(一年生広 葉雑草) ・小麦1～3葉期, 雑 草発生始期での効 果, 薬害の確認	
		一年生イネ 科雑草		小麦生育期 雑草発生前						東北以南
		カズノグ サ		小麦生育期 中耕培土後 雑草発生前						

A. 除草剤 (2)大麦

1.AK-01 液 グリホサートイソプロピル アミン塩:41% [TAC普及会]	実・継 (従来 通り)	一年生雑草	茎葉処理 (全面)	耕起7日以 前, 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	250～500mL 散布水量50 ～100L	全土壌	全域	・作物に飛散しない ように注意する。	・播種後出芽前処 理での効果, 薬害 の確認	
2.ANK-553(改) 乳 ペンディメタリン:30.0% [BASFジャパン]	継								・大麦生育期, 雑草 発生前での効果, 薬害の確認	
3.トリフルラリン 乳 トリフルラリン:44.5% [日産化学]	実・継 (従来 通り)	一年生雑草	土壌処理 (全面)	播種後出芽 前, 雑草発 生前	200～300mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・ツユクサ科, カヤツ リグサ科, キク科, ア ブラナ科を除く ・中耕培土後処理 は播種後の土壌処 理剤との体系処理 で使用する	・カズノグサに対 する効果の変動要 因の確認(中耕培土 後処理) ・大麦生育期(前処 理剤との体系)に よる効果, 薬害の 確認 ・大麦1～3葉期, 雑 草発生始期処理で の効果, 薬害の 確認	
		一年生イネ 科雑草, カ ズノグサ		大麦生育期 中耕培土後 雑草発生前						東北以南
4.トリフルラリン 粒 トリフルラリン 2.5% [日産化学]	実・継 (従来 通り)	一年生雑草	土壌処理 (全面)	播種後出芽 前 雑草発生 前	4～5kg	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・ツユクサ, カヤツ リグサ, キク, アブラ ナ科雑草を除く。 ・大麦生育期処理 は播種後の土壌処 理剤との体系で使 用する。	・体系処理でのカズ ノグサに対する効 果の確認 ・大麦生育期, 雑草 発生前での効果薬 害の確認(一年生広 葉雑草) ・大麦1～3葉期, 雑 草発生始期での効 果, 薬害の確認	
		一年生イネ 科雑草		大麦生育期 雑草発生前						東北以南
		カズノグ サ		大麦生育期 中耕培土後 雑草発生前						

A. 除草剤 (3)なたね

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.NC-360 フロアブル キザロホップエチル:7.0% [日産化学]	継								・イネ科雑草3～6, 6～8, 8～10葉期処理での効果, 薬害の確認

A. 除草剤 (4)水稲刈跡

1.NC-622 液 グリホサートカリウム 塩:48% [日産化学]	実・継	一年生雑草	茎葉処理 (全面)	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～500mL 散布水量 5～6L, 25～ 100L	全土壌	全域	・少水量散布(5～ 6L, 25～50L/10a) の場合は専用ノズ ルを使用する	・ミズガヤツリ, オモ ダカ, クログワイ以 外の多年生雑草に 対する, 翌年の発 生量低減効果の確 認
		多年生雑草			500～ 1000mL 散布水量 5～6L, 25～ 100L				
		ミズガヤツ リ, オモダ カ, クログワ イ(翌年発 生低減効 果)			水稲刈取後 雑草再生時 (草丈30cm以下)				
2.NFH-101 液 (旧名称:MRS-301) グリホサートインプロピル アミン塩:10% 2, 4-PAインプロピルアミ ン塩:5% [ニューファム]	継								・効果, 薬害の確認
3.NFH-131 液 (旧名MRS-195) グリホサートインプロピル アミン塩:41% [ニューファム]	継								・効果, 薬害の確認
4.YF-65L 液 ジクワット:7.0% パラコート:5.0% [シンジェンタジャパン]	継								・雑草イネに対する 密度抑制効果の確 認 ・体系処理での雑 草イネに対する密 度抑制効果の確認

A. 除草剤 (5)水田畦畔

1.JC-401 粒 (旧NHS-50) 塩素酸ナトリウム:50% [日本カーリット]	実・継	一年生雑草	土壌処理 (全面)	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈20cm以下)	20～40kg	全土壌	東北以南		・多年生雑草に対 する効果の確認
2.SBH-207 粒 (旧NHS-50) 塩素酸ナトリウム:50% [エス・ディー・エスバイオテック]	実・継 (従来 通り)	一年生雑 草, 多年生 広葉雑草	土壌処理 (全面)	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈30cm以下)	20～40kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草 に対する効果の確 認 ・スギナに対する効 果の確認